

Universitäts- und Landesbibliothek Bonn

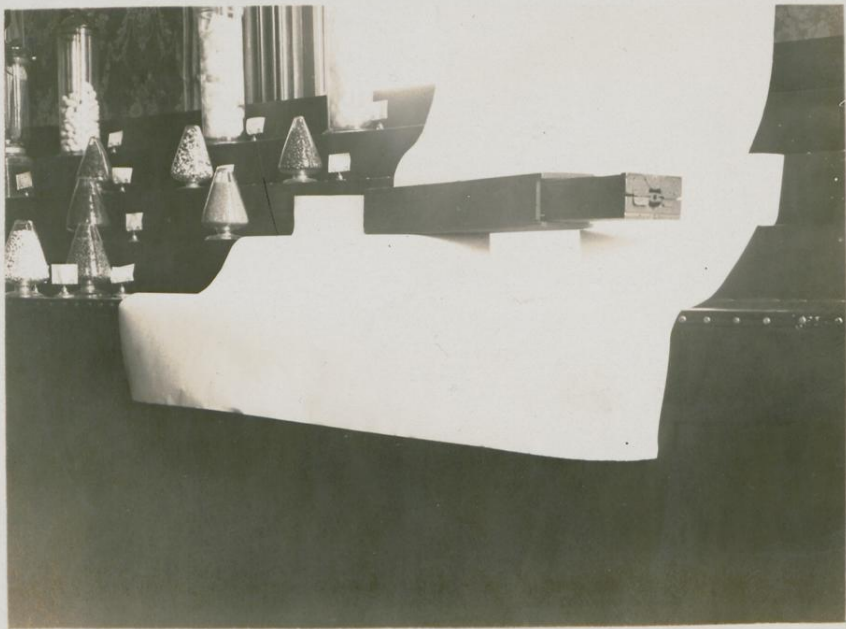
Nagasaki no bussan

Nagasaki

[Nagasaki], Shōwa 7-nen [1932]

urn:nbn:de:hbz:5:1-85758

長
崎
の
物
産





序

本市の産業就中製産状態を大観するに造船造機の如き或は紡績業の如き海港都市として或は貿易港としての價值ある巨人工業を始め大漁港としての鮮魚の集散に附帯する各種水産加工品は噴々たる好評を以て迎へられてゐる。

古い傳統を持つ工藝品の鼈甲、螺鈿漆器、南京針、菓子のカステラ、口砂香、文旦漬、肉製品の東坡肉、ハムベーコン、水産品の南蠻漬、農産品の唐人菜の如きは過去の長崎のみがもつ唐紅毛南蠻の高き匂と濃厚なる色彩を表現された余影である。

就中鼈甲細工、カステラは本市土産品の双璧として天下に冠たり得るもので將來に於ても悠久性を把持するものである。

本冊子は長崎物産を汎く一般に宣傳紹介するを以て主眼とするものではあるが、製産品多岐に亘るので此の小冊子に盡す事が不可能であるから特産品のものゝ個々内容に就ての簡單なる解説を試みたるに止めておいた。

本市に旅する人々のために旅情豊かなるものありと稱せられる長崎の異國情趣の片鱗を窺ふに足る契として本市の史蹟名勝、年中行事を卷末に添附しておいた。

昭和七年三月

長崎市役所勸業課

長 崎

長崎市は九州の西端にある長崎縣の首都で、面積約二方里六六、沿海線三里十九町、金毘羅山等丘陵連山に抱擁せられてゐる。源を日見峠および木場に發する中島川は市を東西に分離し出島に至つて海に注ぎ港口は市の西南にある。港内は水清く波靜かな良港で、西に稻佐嶽が聳え、大小船舶の碇繋極めて完全である。長崎小太郎、七百餘年前の貞應年間この地に來り今の城の古趾に城砦を構へ、その後子孫相傳へて城主となり、戰國時代に至つて大村氏に屬した。天文年間（三八〇餘年前）の頃まで深江の浦と稱してゐた。元龜二年（一五八二）開港され、いつの頃よりか長崎と稱するに至つた。寛永十二年（一六三五）徳川幕府の鎖國令出づるに及んで外國貿易は長崎一港に限つて許され市況の繁盛そのため却つて加はり、安政の開國に至るまで唯一の海外文化輸入の門戸となつて比類なき發達を遂げた。現在では世帯數約四萬三千戸人口約二十萬人である。

一分は海二分山 夾海山爲碧玦灣

宜樓蠻館家萬戸 高低山色海光間

山 陽

長崎の物産

目次

□工藝品

龜甲製品

貝細工

青貝漆器

陶器

縫針

スキヤキ鍋

團扇

日傘

□化粧品

石鹼

椿油

洗粉

化粧品

□菓子

カステラ

八

七

七

六

五

四

三

二

二

二

二

二

一

口砂香、寒菊、落シ焼

文旦漬

一口香

ビスケット

□肉製品

東坡肉

ハムベーコン

水たき

□水産品

蒲鉾

櫻干

トマトサーजन

鰯削節

鰯子

南蠻漬

鰻の加工品

鯛でんぶ

雲丹

鰻鱈

九

九

九

九

〇

〇

〇

二

二

二

二

二

二

三

四

四

四

鮮魚.....一五

□農産品

長崎白菜.....一六

馬鈴薯.....一六

□工業品

造船及鐵工製品.....一七

綿絲紡績品.....一八

□雜品

長崎版畫.....一九

蘭船、唐船、御朱印船.....二〇

マリヤ觀音、踏繪.....二〇

郷土玩具.....二一

□長崎料理.....二二

長崎みやげ品

工藝品.....二五

食料品.....二六

雜品.....二六

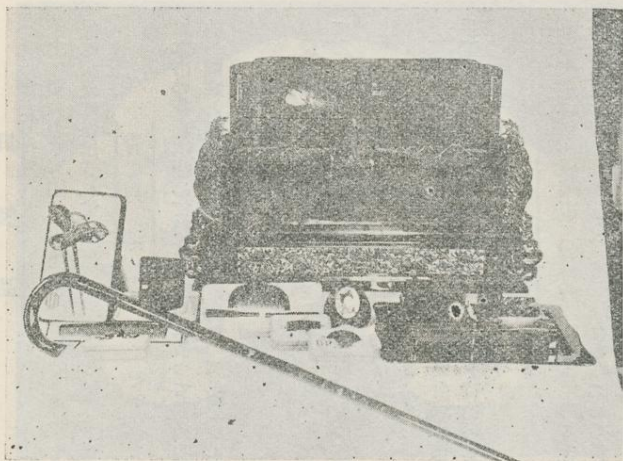
史蹟名勝

長崎の年中行事

出島岸壁	二七
諏訪神社	二七
諏訪公園	二七
シーボルト宅趾	二八
崇福寺	二八
秋帆宅趾	二八
大浦天主堂	二八
出島蘭館趾	二八
眼鏡橋	二九
商工獎勵館	二九
三菱長崎造船所	二九
魚市場	二九
公設中央市場	二九
中川の櫻	三〇
濱町通り	三〇
新地通り	三〇
ハタあげ	三一
ペーロン	三一
盂蘭盆會	三一
諏訪大祭	三一

長
崎
の
物
産

其訓の序



工 藝 品

鼈 甲 製 品

鼈甲細工は長崎市に於て「カステラ」と併
び稱せらるゝ特産品の双璧である。唐傳來の
ものと言はれてゐるが最近益々意匠及び技巧
の發達は製作する品種も多數に亘り櫛簪、束
髮ピン、巻煙草入、手箱、寶石箱、寫真帳、
眼鏡椽、釦、カウス釦、ステッキ、帶メ、化
粧用各種用品、置物其他裝飾品等であるが就
中料紙文庫、硯箱、茶棚、花鳥置物、軍艦模
型等の精巧なるものに至りては斷然本市の特
殊なる秘技にして長崎鼈甲の他に優越を成す
所以でその技術に於て其の産額に於て到底他
の追隨を許さない本市獨特の名産品でその名
は夙に歐米に高く日本の美術工藝として世界
に誇り得べきものであらう。

貝製品

主に釦、カウス釦、帶留、簪、名刺受、煙草セット或は茶卓子等美術的の精巧優秀な品でその製品は海外に輸出されてゐる。

青貝漆器

本市の螺鈿は極めて精密な技巧に依つて普通の鮑貝の内面に施彩した貝を取合せその彩光色澤に他の螺鈿と異つた趣があり妍麗巧緻の製品を出し長崎漆器の名を諷はれてゐる。

陶器

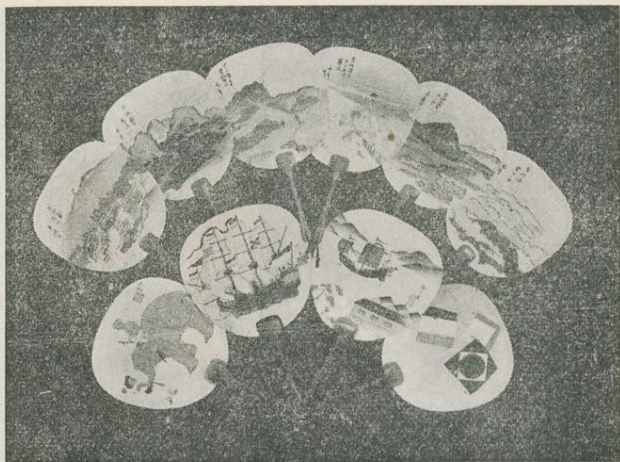
長崎市内には長崎焼、浦上焼の陶器があり花瓶、茶器、菓子鉢、茶器等の雅致あるものを製陶してゐるが就中長崎焼の特異な郷土人形風のもの各種は好評がある。

縫針

寛永の頃唐から傳つたもので夙に長崎針又は南京針と稱し長崎の特産品として世に知られてゐる手工的生産品で腰が強く曲らないのを特色とし誇りとしてゐる。

スキ焼鍋

スキ焼は吾が長崎市を發祥の地であるためスキ焼鍋も古くから製作せられ他地方のものとは變り鋼鐵圓板を切り抜き打ち凹ましたものにして火足が早く熱度が均等に傳導されるの特長を有し使ひ慣らされたる鍋は白銀色となり清潔で奇麗な極めてよき感じを與えるものである。



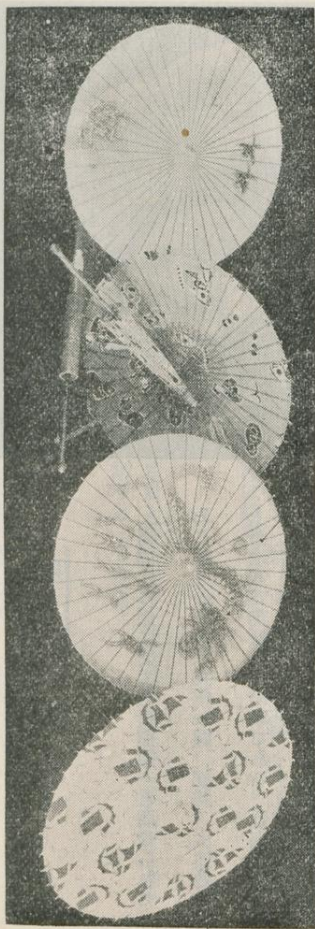
團扇

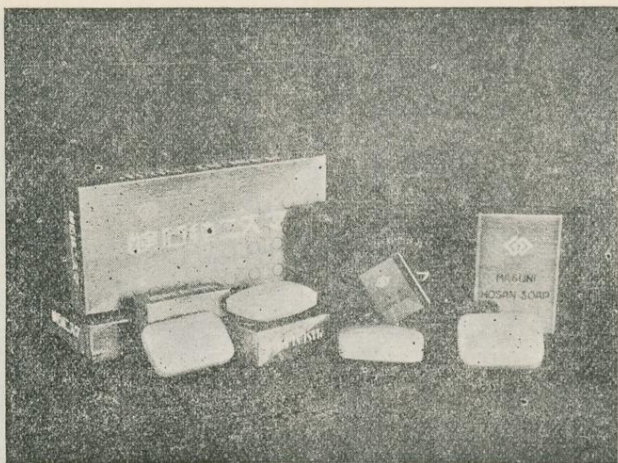
團扇は九州に於て其産額第一と稱せられて
 ゐるが其の販路は九州一圓、朝鮮、大連地方
 上海地方で美麗且つ堅牢である。近來土産品
 として長崎團扇は長崎の異國情趣を漂はし、
 雲仙うちわは新八景の一たる雲仙の風光を表
 現したもので趣味的なものとして歓迎せられ
 てゐる。

日

傘

絹ダツク、布地、浴布地、和紙に本市独自の異國情趣的圖案に依つて製し極めてモンダ味に富み近代娘の嗜好に適してゐる。





化粧品

石

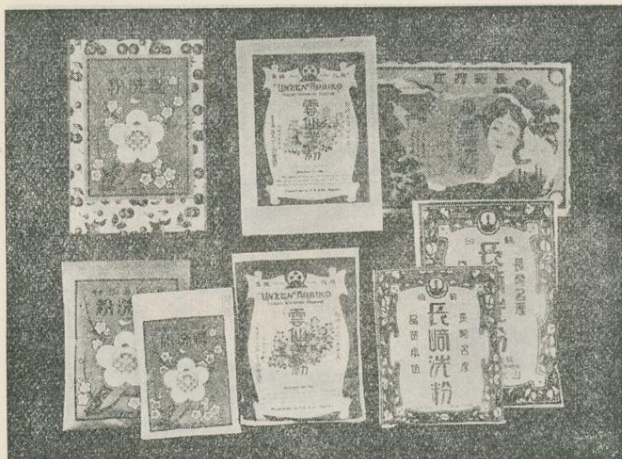
鹼

長崎の石鹼は明治の初年長崎の品川某米國
宣教師スタロウトに就き石鹼製造法の口傳を
受け始めて製造に着手し爾來幾多の研鑽の後
精良な品を造り得るに至つた。現今では洗濯
用化粧用、工業用など製造し内外に輸出する
重要物産となつてゐる。



椿
油

本縣市に於ける椿油の産額及び品質は全國第一位を占むるのであるがこの事實はあまり世間に周知されてゐないけれども近時京阪帝都其他にも益々需用せらるゝに至つてゐる。

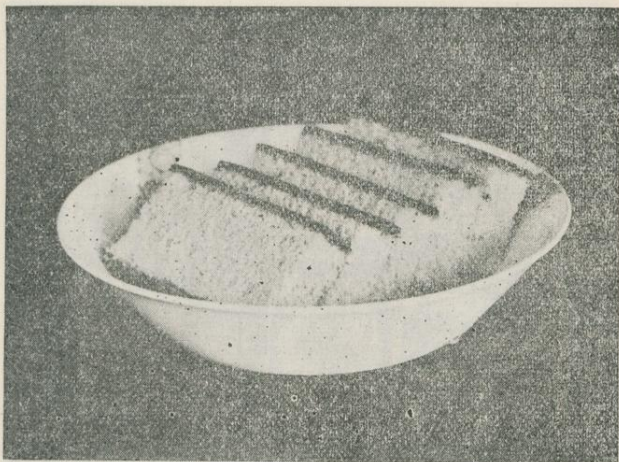


洗粉

「フタナリ」と稱する綠豆を原料としたもので品質優良である爲め長崎洗粉の名を博して京阪東京方面から朝鮮、臺灣まで移出してゐる長崎市の特産品である。約二百六十年前時の鐘樓守某が綠豆の粉末にて鐘を洗ひ其の効果の著しきを知つて賣出したのが起源である

化粧品

本市に於ける化粧品製造としては「クリスタル」「同白粉」「薬用タイシクリーム」「特殊毛生油」「ふけとり養毛水」「タイシボマー」「タイシ白粉」等がある。



菓 子

カ
ス
テ
ラ

長崎と云へば直ちにカステラを聯想する程有名である此の菓子は元南蠻傳來のもので往時南蠻傳方、不老仙果などと稱し本邦高級菓子としての誇りを感じたものだが三百數十年前長崎に創造されたものである。今では全国各地にてこの菓子の製造をして居るけれども元祖たる長崎独自の風味はとても他にて模倣することの出来ない處で長崎自慢の名物である。

口砂香、寒菊落し焼

口砂香は元祿年間に長崎在住の唐人から傳はつた菓子で一種の風味がある近時麻雀口砂香を製作した。寒菊は長崎獨特の菓子で寒餅を焙り甘味をかけたもので落し焼は丸ボーロの一種で古く傳來した南蠻菓子で何れも茗茶の友として相應はしいものである。

文旦漬

文旦は寛永七年は瓜哇國の船主周九娘と云ふものがこの種子を長崎へ植へ作つた大きな圓らな柑類であるが文旦漬はその實を包む厚い皮を砂糖漬にしたもので本市の名産品である。

一口香

唐傳來菓子にして形狀は直徑二寸厚み八分圓形で中空となつてゐるが饅頭と焼物との中間的味を持つ他國に無い極めて特徴ある菓子である。

ビスケット

九州製菓株式會社のビスケットは年産額二十万圓にして販路は遠く台灣、滿洲、朝鮮に及び品質の優良と廉價を以つて有名である同社は其外ブドウ飴チャイナマーブルを製してゐる。

肉 製 品

東 坡 肉

支那料理の豚の角煮である。古く支那人からその製法を傳へられた長崎特有の珍味として食通間に知られてゐる。料亭迎陽亭家傳の調味法に依り罐詰として販賣されてゐる。

ハム、ベーコン

長崎市は最古の貿易港だけに幕末からこの食料品が製産せられ夙に歐米人に賞讃を得たものである。近時家庭ハムなど内地向きのもの製造せられて内外の需用を博してゐる。長崎市は日本三大製造地の一に數へられてゐる。

水 た き

水たき料理は長崎市が本那に於ける先驅であるが近時之を罐詰として市場に出し好評を博してゐる。

水産品

蒲

鉾

長崎蒲鉾は魚類の安價にして豊富なるため専ら新鮮なる魚肉のみを用ひ交ぜもの極めて少く格別の味を有し夙に世に實用されてゐる、その種類には板付、厚焼、伊達巻、ハンペン竹輪、油揚げ、昆布巻、スボ巻等である販路は九州一圓京阪及東京方面に有してゐる。最近揚南鉾の罐詰フィッシュボールが實用され内地は素より支那南洋方面に輸出されてゐる。

櫻

干

鰯を乾し調味したもので直に焙つて食膳に供する事の出来る簡便で美味しき食料品、鰯の加工品中最も需用の多いものである。最近では瓶詰、籠詰、水晶紙包など贈呈上格好の包装を用ゐてゐるが京阪及京都方面に大分需用が多い。

トマトサージン

滋味豊富を以て聞えた長崎灣口近海漁獲の新鮮な大羽鰻を原料とし之を品質優良なる「トマトソース」で調味した食料品で主に支那、南洋、南米、佛蘭西方面に輸出されてゐる。

鰻削り節

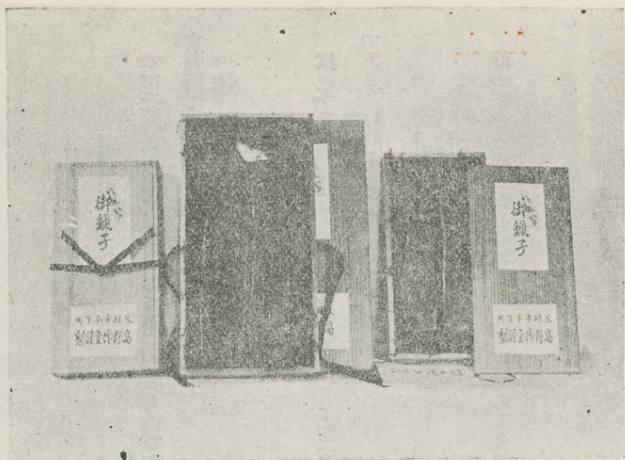
鰻を乾燥したるものを削りたるものにして鰻節の代用品として家庭必需品として一般に歡迎せられてゐる。

南蠻漬

南蠻料理の衣鉢を傳えたものに南蠻漬がある、紅差、ほでりの魚類を油にて揚げ酢に漬けたもので長崎独自の料理で酒の肴として好適なものである。

鰻の加工品

鰻の加工品としては「錦いか」「櫻いか」「寶いか」がある鰻を偏平に延ばし調味を附したもので淡白にして鰻獨特の風味を持ち特にビールの伴侶として最も適當である。



鱧

子

二百五十年の傳統を有する珍味で鰯の胎子を乾燥し特殊の加工したもので十月から十二月迄の期間に製造せらる長崎獨特品で高雅な風味に富み之れを食すれば毒酒を消し宿醉を豫防すると稻せられ古來天下三昧の一として酒客に珍重せられてゐる。

鯛 てんぶ

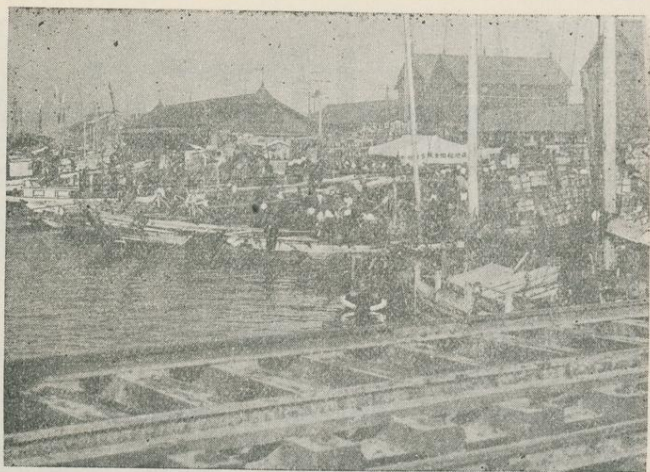
本市近海産の鯛を原料として製したるもので美味にして廉價なるために好評があり近時大阪、東京方面に多大なる需要がある。

雲 丹 豆

蠶豆を脱皮したるものに雲丹を密着せしめたるもので茶、酒及びビールの伴侶として佳良なものである。

鰯 鱈

鰯の鰯を乾燥したる支那料理に愛用せらるる食料で多く南支方面に輸出せられてゐる。



鮮

魚

本縣は西北に朝鮮海西南に支那海を控へ無盡の魚族を蔵してゐるので毎年漁業家に依て獲らるゝものは約壹千萬圓に達し鯛、鰯、鯖、鰺など魚介の大部分は多く生鮮のまま露がれ長崎市だけに集散する鮮魚のみにも價格約七百萬圓を超へ毎日鐵路に依り九州各地及京阪地方より東京方面まで輸送せられるのである。

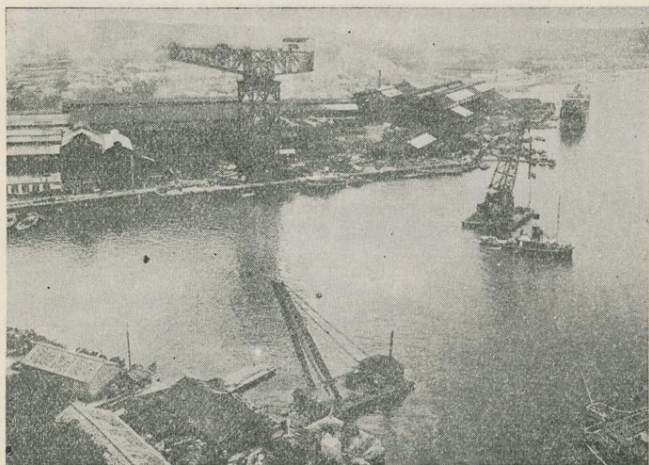
農 産 品

長 崎 白 菜

唐人菜又は唐菜とも云ふ歸化植物であるが支那白菜のやうに結球はしてないが葉肉柔軟風味よく一株重量一斤半から三斤位あり煮物用漬物として賞用される。

馬 鈴 薯

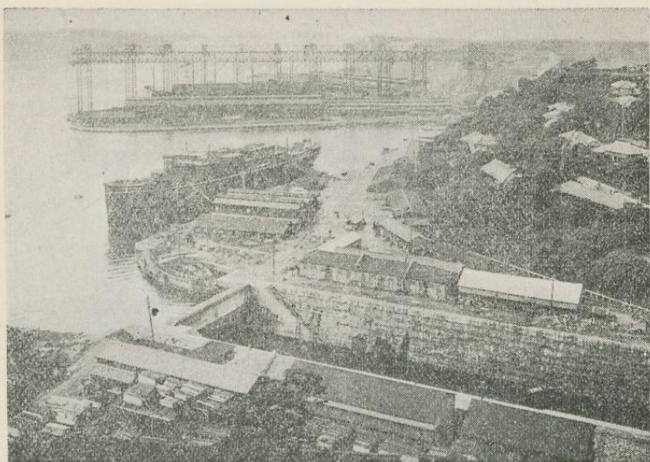
長崎の馬鈴薯は塊根肥大にして屑物の少ないのが特色である。主産地は長崎市を中心として隣接町村で比律賓、香港、濠洲等に輸出して好評を博してゐる。



工 業 品

造船及鐵工製品

造船工場、造機工場、製材工場船渠船架など整然と連つてその規模の宏大なることは東洋一と稱せられてゐる三菱造船所は現代に於ける最新の機械を完備して軍艦、商船、其他船舶並汽機、機艙、電氣類の製作や修理をなし職工六千有餘を算する大工場にしてこの外造船の建造並に修理を業としてゐる鐵工場や石油發動機船、帆船等の建造をなしてゐる小規模の工場があつてそれ等を合せ造船額は年

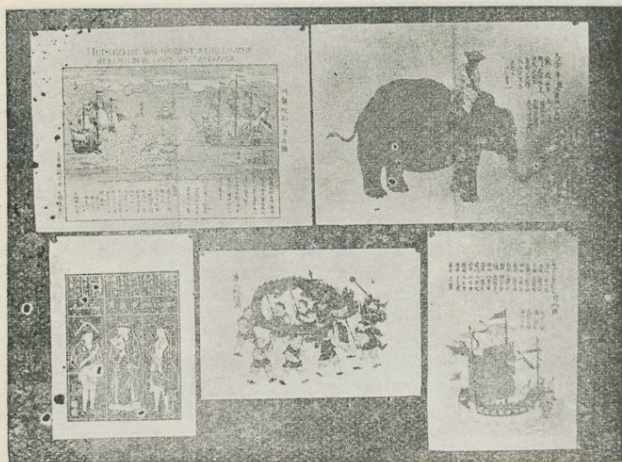


約三千八百萬圓に達し鐵工業製品が三百五十餘萬圓に達するのである。

綿 絲 紡 織

綿絲紡績は長崎紡織株式會社で生産する。

同工場は大正三年に創設され大正四年から操業を開始したので左撚二十手の製造をなし平均運轉鍾數が六萬四千職工が約一千五百人餘でその生産額は年約四百萬圓を算し主として香港方面に輸出されてゐる。

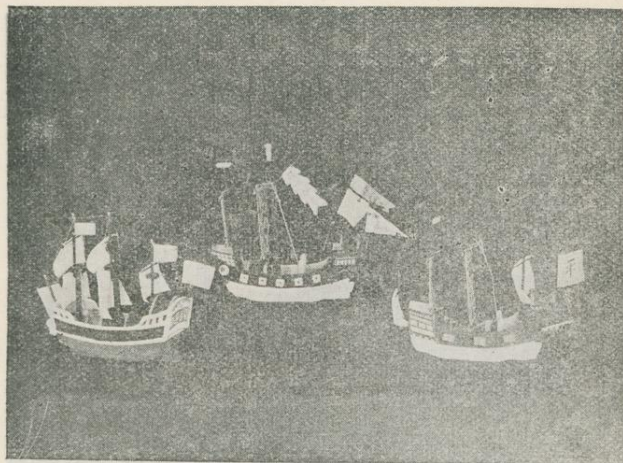


雜

品

長崎版畫

長崎版畫即ち長崎繪は江戸繪及び大津繪と共に往昔天下に稱讀せられたものであるが長崎繪中の白眉たる文錦堂版、唐人船、阿蘭陀船象戲、各國人圖、蛇踊等を複刻したものであるが長崎繪の特徴は異國情趣の横溢せるのみならず江戸繪等にし比て幾分の素朴味を帯びてゐる



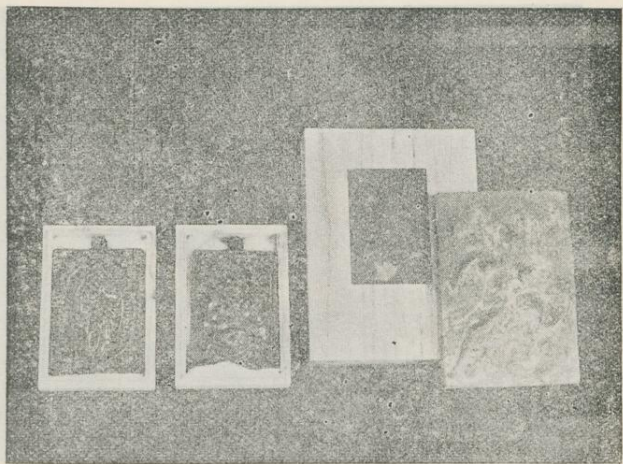
蘭船、唐船、御朱印船

往時本港の貿易船であつた阿蘭陀船唐人船及び御朱印船（末次船、荒木船）を長さ七寸程度の精巧なる木製の模型で造つたもので極めて美麗で異國情趣に富み室内の裝飾品として賞用せらる。



マリヤ観音、踏繪

吉利支丹宗門禁教時代信者がひそかに白磁製「子育て観音」をマリヤに擬して禮拜したもの、踏繪はキリスト或はマリヤの像を眞鍮にて鑄たるもの物信徒發見の方法として用ひたるもので現に帝國博物館に保存されてゐるものによりて複製したるもので史的土産品として好評がある。



郷土玩具

長崎紙鳶、長崎獨樂、鯨の汐吹き、天狗の面、ペーロン舟、竹人形、木彫人形等は郷土玩具として知られてゐる。



長崎料理

唐、紅毛、南蠻との複綜せる吾が長崎昔時の燦爛たる文化は料理方面にも影響し各國のものと本邦料理の渾然として融合し本邦人の味覺をそゝるに適合すべく轉化し茲に長崎料理（一名卓袱料理と稱す）といふ特殊なる料理が創造されたのである。搗てゝ加へて本市は水産品、農産品は低廉且つ新鮮なるの關係上長崎料理は安價にして美味を以て天下に賞せられて居るのみならず古き唐、紅毛、南蠻の匂ひと彩りを濃厚に表現してゐるために現代人に對しても尙且つ新らしく生命を有するわけである。

長崎みやげ品

昇仙の品

長崎みやげ品

■工 藝 品

鼈甲製品——櫛簪、束髪ピン、巻煙草入、手箱、寶石箱、寫真帳、眼鏡椽、釦カウス釦、ステッキ、帶、化粧用各種用品、置物、其他裝飾品各種

貝細工——釦、カウス釦、帶留、簪、煙草セット等

青貝漆器——煙草入、盆類

陶器——花瓶、茶器、菓子鉢、人形類

縫針——箱入、紙袋入

スキ焼鍋——大、中、小型

團扇——長崎團扇、雲仙團扇

日傘——長崎日傘

椿油——瓶入

洗 粉——箱入、袋入

石 鹼——化粧及洗濯石鹼

■食 料 品

カステラ、口砂香、寒菊、文旦漬、一口香、蒲鉾、櫻干、鱈子、錦いか、鯛でんぶ、雲丹豆、人造豆、唐人煎餅、南蠻漬、家庭ハム

■雑 品

長崎版畫、唐船、御朱印船、ペーロン舟、マリヤ観音、踏繪、長崎紙鳶、長崎獨樂、鯨の汐吹き、天狗の面

■長崎みやげ品は商工獎勵館に陳列し販賣してゐる、品切れ等の際は信用ある○店より迅速に取り寄せる便宜もありますから同館看寄人にまで御申出下さい

史蹟名勝

史蹟名勝

史韻各翻

出島岸壁

長崎に於ける海の玄關口たる出島岸壁は南蠻紅毛貿易の昔を偲ぶ蘭館趾出島を背景とする羽衣町にあり、日支聯絡船長崎丸、上海丸の發着場にして昭和五年三月長崎みなと驛新設され船車聯絡の設備が完成した岸壁待合所内には長崎物産紹介所がある。

長崎驛より徒歩にて約十五分を要すまた驛前より末廣町まで電車の便がある。

諏訪神社

國幣中社諏訪神社は森崎大神住吉大神とを合祀せる所にして寛永二年の再興にかゝり現今の社殿は明治二年の造營である、この神殿の英文みくじは他に見られない特異なものである。

長崎驛前より諏訪神社前まで十一町余自動車にて四分間また驛前より社前馬町終点まで電車の便がある。

諏訪公園

諏訪神社の神域に連り園内には林泉、小動物園、武德殿、音樂堂、圖書館、其他内外著名人士の

記念碑グラント將軍（明治十二年來朝）手植の榕樹等あり、附近には二三の掛茶屋があつて市内港内を一眸の下に俯瞰せられ眺望が極めて佳い。

シーボルト宅趾

市の東方鳴瀧町にある、この地はもと文政六年（一八二三年）來朝した蘭醫シーボルトが學舎を建て醫學及博物學を講じた所で我が國醫學發祥の地である。

諏訪神社前より櫻馬場町、鳴瀧町入口で國道筋約七町徒歩道路約三町

崇福寺

崇福寺は寛永六年（一六二九年）明僧超然によつて開基された黄蘗宗の寺院で本邦に於ても長崎にのみ觀る唐風建築で今籠町にある、建物は全部天然建造物に指定され境内には天和二年（一六八二年）大飢饉の際の住職千獸和尚が鑄造して市民を救つた大釜がある。

諏訪神社より十三町余自転車にて七分間

秋 帆 宅 趾

今を距る百余年前天保の頃洋式砲術の中興高島秋帆が洋式武器を研究し多數の門弟を指導したる所にして東小島町にあり、かつて秋帆の書齋であつた「櫻の間」は今も尙存してゐる。

大 浦 天 主 堂

東山手町に在り建物は文久三年の起工元治元年（一八六四年）に落成せる日本最古の天主堂である
出島岸壁より約十町自働車で四分間

出 島 蘭 館 趾

寛永十二年徳川幕府はキリシタン禁制の目的を以て海面に扇形の一小島を埋築して出島と稱し長崎在住葡萄牙人を此處に移した安政の開港に至るまで二百二十余年間東西文化輸入の門戸であつた。

眼 鏡 橋

中島川に架けたる唐風の石橋で寛永十一年興福寺の住持如定によつて架設せられたるもので本邦最初の唐風石橋と稱せられてゐる橋は脚柱を中に挟んで双丹を描き居るを以て眼鏡橋の稱が起りし

もので往時の特種な長崎情景が味はれる。

商工獎勵館

諏訪公園の入口に在る明治三十一年の設立にかゝり市商工業者の指導獎勵に努みて居る本館には多數の市内製産品を陳列即賣に供して居る。

三菱長崎造船所

安政三年徳川幕府が蘭人を聘して飽の浦造船工場を利用したのが造船所の濫湯で明治十七年七月三菱社が工部省より譲り受け業務を開始爾來星霜今日に及び東洋第一の大造船所として名實共に其の存在を認められ現在では一萬余の従業員を擁してゐる。

魚市場

尾上町にあり近海に遠洋に天興の大漁場を有するを以て幾多の漁船は本港を根據となして漁業に従事し、同市場一ヶ年水揚高は五百万圓に上り其の中の八割を各方面へ移出し其の販路は大阪、京

都及東京方面にまで及ぶ長崎市は大正元年尾上町に魚類集散所を設け魚類の陸揚搬出等當業者の便宜を計り好成績を擧げてゐる。

公設中央市場

近代的鐵筋コンクリート二階建にして市の中央本下町に在り階下は魚類蔬菜を始め一般食料品を販賣し二階は長崎百貨店と稱し雜貨日用什器土産品を販賣し三階は食堂及各種の催ものの用に供されつゝあり。

中川の櫻

中島川の清流に沿つて春爛漫の白雲を棚曳かすのはカルスの櫻である花の風情にたわむれて春風にゆらく灯影は清流に映えて又一段の美觀を呈す春の夜のそゞろ歩きを思はしめるものは實にこの中川の櫻である。

川上の本河内水源地もまた櫻花の名所として知らる。

濱町通り

市の中央商店街にして大小の商店櫛して商戦を競ふ華かさ殊に夜の鈴蘭燈は商店街の一偉觀である。

新地支那街

濱町通りより南折し數分にして達する地に中華街あり、大小の華商軒を並べて居る、現在在留支那人は約千名を越ゆ。

長崎の年中行事

河内縣志

河内縣志にして、大小の河内縣として、河内縣を以て、河内縣の河内縣は、河内縣の一河内縣

河内縣志

河内縣志にして、大小の河内縣として、河内縣を以て、河内縣の河内縣は、河内縣の一河内縣

河内縣志

ハ タ あ げ

長崎のハタあげは春の野外享樂として桃の節句から初まり市内男子のある家には近親知己からハタを節句の贈物となすことは古來の例で現在では四月十日金比羅山同十五日風頭山同二十一日城の古趾同二十五日風頭山同二十八日準提觀音を各紋日として、當日は山は一面の人を以て埋められ競技の有様は壯觀目を奪ふべきハタ合戦が行はれる。

ベ ー ロ ン

長崎では六月十五日に近き日曜日を選んで行はれるも長崎近傍の漁村では時々催されてゐる。徳川初期南方支那より傳はりたるもので大鼓銅羅の拍子で獨木舟の如く漕出し梅雨霽れの波上に一抹の風雲を呼び起す様實に古代海上競技として南國的の勇壯なる感に打たれるものである。

孟 蘭 盆 會

七月十四日十五日兩日行はれ長崎を繞る山々に祀る市民先祖代々の墓前には各家紋を描いた灯籠

を灯し亡き人々の霊を迎へ供養を營むのであるが之を遠望すれば當夜の山々は一大イルミネーションを現出するのみならず支那風の爆竹、晋火矢等によりて異國情趣を漂はし十五日の夜大小とりどり美々しく仕立てた精靈船が極樂丸、西方丸など印した帆を張り銅羅鉦などの鳴物入りで市中を練り歩いて精靈を海邊へ送るのである。

諏訪大祭

諏訪神社の祭禮は日本三大祭の一として有名なる行事で寛永十一年（一六三四年）より執り行ひ今日に至つてゐるが十月七日大波止御旅所へ神輿渡御九日還御の儀あり。行列は數町に亘つて壯嚴佳麗を極め年番町が奉仕する祭禮余興を取り行ふ神事町は御先供として神前に各町由緒ある傘鉾を先導として「神事踊」を奉納するのであるが、神事踊としては古き世の長崎の匂と彩りを濃厚に表現する幾多の催しが行はれる祭禮には拜觀者毎年數万人に及ぶ。

本市 の 観 光、 日 程	各 地 物 産 の 紹 介	取 引 購 入 の 幹 旋	本 市 物 産 の 調 査
------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

右は御照會になれば速に回答並に御幹旋をいたします

長崎市役所勸業課

— 昭和七年度版 —



印刷所

山田組印刷部

